

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
I-2-(1)-② 大学などの教育研究機能の 充実	1	④	公立大学法人北九州市立大学運営事業	総務課	公立大学法人の設立団体として、地方独立行政法人法第42条に基づき、業務運営に必要な経費を交付し、法人の業務運営の健全性を確保する。	公立大学法人北九州市立大学評価委員会における各事業年度に係る業務に対する評価	目標	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年度)	継続	2,665,000	3,144,000	増額	13,200	順調	第四期中期計画の実施に向け、引き続き公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などを支援する。 また、老朽化施設の改修等施設整備を支援する。	順調	引き続き公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などの支援に努めていく。
							実績	A (計画どおり)												
							達成率	—												
						公立大学法人北九州市立大学評価委員会における中期目標期間に係る業務に対する評価	目標	単年度目標設定なし	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (R6年度)									
							実績	—												
							達成率	—												
I-2-(1)-④ シンクタンクを活用した調査・研究機能の強化	2	④	公立大学法人北九州市立大学運営事業	総務課	北九州市立大学地域戦略研究所での地域研究プロジェクト、受託調査を通じて、地域研究の高度化を推進する。	公立大学法人北九州市立大学評価委員会における各事業年度に係る業務に対する評価	目標	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年度)	継続	2,665,000	3,144,000	増額	13,200	順調	第四期中期計画の実施に向け、引き続き公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などを支援する。 また、老朽化施設の改修等施設整備を支援する。	順調	引き続き公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などの支援に努めていく。 アジア成長研究所については、市民・企業向けの講座に関して、リモート会議のさらなる改善と定着に取り組み、認知度と貢献度の向上を目指し、引き続き「地元貢献」に重点を置いて活動するように求める。 また、研究活動についても引き続き、外部資金を獲得するための努力を行うとともに、「国際水準の知的基盤の強化」を推進するように求める。
							実績	A (計画どおり)												
							達成率	—												
						公立大学法人北九州市立大学評価委員会における中期目標期間に係る業務に対する評価	目標	単年度目標設定なし	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (R6年度)									
							実績	—												
							達成率	—												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度									
3	④ ⑦ ⑰		(公財) アジ ア成長研究所 補助金	国際 政策 課	地元貢献を重視 した日本を代表す るアジア研究機関 を実現するため、 地域への知的貢献 と国際水準の知的 基盤の強化を目的 とする活動を行う (公財) アジア成 長研究所へ補助金 を交付する。	著名な学術雑誌へ の論文掲載数	目標	5 本	5 本	5 本	5本 (毎年 度)	継続	140,000	140,000	維持	4,650	順調		
							実績	5 本											
							達成率	100.0 %											
						科学研究費を含む 外部資金獲得数	目標	6 件	6 件	6 件	6件 (毎年 度)								
							実績	5 件											
							達成率	83.3 %											
I-2- (2)-③ アジア との架 け橋と なる人 材の育 成	4	④ ⑨	公立大学法人 北九州市立大 学運営事業	総務 課	公立大学法人の 設立団体として、 地方独立行政法人 法第42条に基づ き、業務運営に必 要な経費を交付 し、法人の業務運 営の健全性を確保 する。	公立大学法人北九 州市立大学評価委 員会における各事 業年度に係る業務 に対する評価	目標	A (計画ど おり)	A (計画ど おり)	A (計画ど おり)	A (毎年 度)	継続	2,665,000	3,144,000	増額	13,200	順調		
							実績	A (計画ど おり)											
							達成率	—											
						公立大学法人北九 州市立大学評価委 員会における中期 目標期間に係る業 務に対する評価	目標	単年度目標 設定なし	A (計画ど おり)	A (計画ど おり)	A (R6年 度)								
							実績	—											
							達成率	—											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
II-3- (3)-① 多文化 共生社 会の実 現に向 けた体 制の構 築	5	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の 推進	国際 政策 課	外国人市民が安 心して暮らすこと ができる多文化共 生のまちづくりを 推進するため、外 国人市民が抱える 生活上の諸問題や 支援に対するニー ズの把握を行う。	指標名等	現状値 (基準値)	54.0 %	61.0 %	61.0 %	62% (R6年 度)	継続	42,803	43,921	維持	3,075	順調	多様なニーズを把握し、多 文化共生施策をより効果的 に行うため、幅広い層（在留資 格、年齢、居住年数など）の 外国人市民に参加を促す。	順調	外国人市民が日本で生活す る上での課題やニーズを把握 するため、ディスカッション の場を継続して設け、積極的 に意見を聴取し効果的な施策 の実施に努める。 また、相談窓口においては 具体的な課題の解決を目指 し、関係機関との連携をより 強化し、外国人市民が安心し て住み続けられるよう継続し て支援を行う。
						市民の「多文化共 生」という言葉の 認知度	51.8% (H29年 度)	59.9 %					110.9 %							
II-3- (3)-② 外国人 市民の 生活環 境の充 実	6	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワ ンストップイ ンフォーメー ションセン ター運営事業	国際 政策 課	外国人市民が安 心して生活できる ための情報提供や 相談に多言語で一 元的に対応する 「北九州市多文 化共生ワンストップ インフォメーショ ンセンター」の運 営を行う。	指標名等	現状値 (基準値)	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80%以 上 (R6年 度)	継続	24,715	24,715	維持	2,325	順調	外国人市民が抱える様々な 問題に、行政機関や専門家と 連携しながら、伴走型の支援 を継続し、外国人市民にとっ て安全・安心な生活環境の整 備に努める。	順調	今後も(公財)北九州国際交 流協会と緊密に連携し、多様 化する外国人市民ニーズを的 確にとらえ、外国人市民が安 心して住み続けられるよう、 さらにきめ細やかな情報提供 や伴走型支援を行う。
						外国人市民の生活 環境の向上 (多文化共生の現 状調査で暮らしや すいと回答)	79.7% (H26年 度)	—					—							
II-3- (3)-② 外国人 市民の 生活環 境の充 実	7	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の 推進	国際 政策 課	日本語の不得手 な外国人市民への サポートとして、 行政機関や医療機 関（健康診査）に 通訳ボランティア を派遣するととも に、災害時通訳も 含めた通訳スタッ フのスキル向上を 図る。 また、多言語等 でわかりやすい生 活情報の提供をす ることにより、外 国人市民の安全・ 安心な生活環境の 整備を推進する。	指標名等	現状値 (基準値)	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80%以 上 (R6年 度)	継続	42,803	43,921	維持	3,075	順調	外国人市民が安心して生活 できるよう、引き続き行政機 関や医療機関への通訳派遣を 実施する。また、外国人市民 が必要な情報を得られるよ う、やさしい日本語や多言語 で情報を発信する。	順調	今後も(公財)北九州国際交 流協会と緊密に連携し、多様 化する外国人市民ニーズを的 確にとらえ、外国人市民が安 心して住み続けられるよう、 さらにきめ細やかな情報提供 や伴走型支援を行う。
						外国人市民の生活 環境の向上 (多文化共生の現 状調査で暮らしや すいと回答)	79.7% (H26年 度)	—					—							

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度									
	8	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワ ンストップイ ンフォメー ションセン ター運営事業	国際 政策 課	外国人市民が安 心して生活でき るための情報提供 や相談に多言語で 一元的に対応する 「北九州市多文化 共生ワンストップ インフォメーショ ンセンター」を設 置し運営を行う。	外国人市民の生活 環境の向上 (多文化共生の現 状調査で暮らしや すいと回答)	79.7% (H26年 度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	80%以 上 (R6年 度)	継続	24,715	24,715	維持	2,325	順調	外国人市民が抱える様々な 問題に、行政機関や専門家と 連携しながら、伴走型の支援 を継続し、外国人市民にとっ て安全・安心な生活環境の整 備に努める。	
II-3- (3)-③ 市民の 国際理 解の推 進	9	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の 推進	国際 政策 課	日本人市民に対 して、多文化共生 に関する意識啓発 や国際交流の機会 や場の提供を行う ことで、外国人を 受け入れる地域づ くりを目指すとし ても、すべての市 民が安心して暮ら し、自己の能力を 発揮できる「多文 化共生先進都市」 としてのまちづく りを推進する。	市民の「多文化共 生」という言葉の 認知度	51.8% (H29年 度)	目標 54.0 %	実績 59.9 %	達成率 110.9 %	62% (R6年 度)	継続	42,803	43,921	維持	3,075	順調	外国人市民を受け入れる地 域の土壌づくりを行うため、 やさしい日本語の普及や防災 に関する事業を実施する。	外国人市民に対する働きか けだけではなく、日本人市民 に対する多文化共生に関する 意識啓発についても継続して 実施し、多文化共生のまちづ くりを目指す。
III-1- (1)-② 定住促 進や地 域活性 化のた めの環 境づく り	10	③ ⑧ ⑪ ⑰	定住・移住促 進事業	企画 課	北九州市まち・ ひと・しごと創生 総合戦略に人口減 少対策の重要な柱 の1つとして位置づ ける「定住・移住 の促進」を図るた め、首都圏におけ るPRや「北九州市 版生涯活躍のま ち」の推進等に向 けて取り組むも の。	20歳代～30歳代の 社会動態の増加数	0人 (R1年)	目標 100 人	実績 362 人	達成率 362.0 %	450人 (R3～R5 年)	継続	46,190	44,090	維持	30,750	大変 順調	アフターコロナになりつつ ある中で、テレワーク等の場 所を選ばない柔軟な働き方 により、移住に関心を持つ若 年層が増加している。この好 機を逃さず、20～30歳代の 社会動態の改善を図るため、 移住促進のホームページの運 営や、新たなPRツールの作成、 SNSの活性化、オンラインに よるセミナーの開催等、若年 層に届きやすいツールを用い て本市の魅力や住みよさを発 信する。	テレワーク等の場所を選ば ない柔軟な働き方への関心 が高まっていることに対応す るため、移住検討者のニーズ に沿った提案と効果的な情報 発信を図る。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度									
11	⑧ ⑪		複業・兼業による関係人口づくり事業～北九州市と首都圏を結ぶ人材マッチング～	東京事務所	KitaQフェス等を通じて得た首都圏の関係人口（KitaQサポーター等）を本市への移住・就職に結びつけるため、市内の仕事をテレワーク等により複業・兼業する仕組みを構築する。 加えて、本市の暮らしや食等を体験してもらうワークショップを実施する。	複業・兼業のマッチング件数	0件 (R2年度)	目標	10 件	20 件	30 件	累計60件 (R5年度)							
							実績	10 件											
							達成率	100.0 %											
11	⑧ ⑪		複業・兼業による関係人口づくり事業～北九州市と首都圏を結ぶ人材マッチング～	東京事務所	KitaQフェス等を通じて得た首都圏の関係人口（KitaQサポーター等）を本市への移住・就職に結びつけるため、市内の仕事をテレワーク等により複業・兼業する仕組みを構築する。 加えて、本市の暮らしや食等を体験してもらうワークショップを実施する。	KitaQサポーター登録者数	2,032人 (R1年度)	目標	2,700 人	2,900 人	3,100 人	登録者数計3,100人 (R5年度)	継続	9,000	9,000	維持	20,700	順調	複業・兼業のマッチング件数については、令和6年度からの自走化を目指すため、企業・複業人材向けセミナー、学生版セミナー、金融機関ネットワーク等を駆使して、事業周知を図った。 また、東京事務所における新規移住相談者数については、更なる相談者数増加に向けて、首都圏での独自セミナーを企画、主催できるように関係機関と調整を行っている。
							実績	2,961 人											
							達成率	109.7 %											
11	⑧ ⑪		複業・兼業による関係人口づくり事業～北九州市と首都圏を結ぶ人材マッチング～	東京事務所	KitaQフェス等を通じて得た首都圏の関係人口（KitaQサポーター等）を本市への移住・就職に結びつけるため、市内の仕事をテレワーク等により複業・兼業する仕組みを構築する。 加えて、本市の暮らしや食等を体験してもらうワークショップを実施する。	東京事務所における新規移住相談者数	149人 (R1年度)	目標	200 人	200 人	200 人	新規移住相談者数200人 (毎年度)	継続	9,000	9,000	維持	20,700	順調	複業・兼業のマッチング件数については、令和6年度からの自走化を目指すため、企業・複業人材向けセミナー、学生版セミナー、金融機関ネットワーク等を駆使して、事業周知を図った。 また、東京事務所における新規移住相談者数については、更なる相談者数増加に向けて、首都圏での独自セミナーを企画、主催できるように関係機関と調整を行っている。
							実績	179 人											
							達成率	89.5 %											
III-2-(1)-① 近代化遺産などの文化財の保存・継承	12	⑩	世界遺産維持活用保全事業	総務課	国や関係自治体、所有者等との連携のもと、遺産価値の保全につとめる。	登録資産の保全	現状把握のための調査継続	目標	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成 (毎年度)	継続	27,132	26,245	維持	5,800	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により実施困難な会議やイベントについて、Web会議や書面開催を活用するとともに、コロナ禍においても実施可能なPRイベントを検討していく。
							実績	ユネスコへの報告書作成											
							達成率	—											
						まつり起業祭等、地元の祭り等に出展	2件 (R1年度)	目標	2 件	2 件	2 件	2件 (毎年度)	継続	27,132	26,245	維持	5,800	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により実施困難な会議やイベントについて、Web会議や書面開催を活用するとともに、コロナ禍においても実施可能なPRイベントを検討していく。
								実績	2 件										
								達成率	100.0 %										

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
13	⑩		世界遺産集客にぎわい創造事業	総務課	旧本事務所見学バスツアーを実施するとともに、バスツアーにおけるガイドの充実を図る。	バスツアーの参加者数 ※中期目標改訂	64人	目標 160人	実績 0人	達成率 0.0%	120人 (R5年度)	継続	1,400	1,280	減額	5,800	遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により休止しているバスツアーを再開するため、所有者と継続して協議・調整を図り、実施に向けた準備を進めていく。 また、ツアーの内容について、世界遺産をPRするとともに東田地区のにぎわいづくりにつながるような効果的な実施方法を検討し、ルートや回数の見直しを行った。 【中期目標の変更内容】 見学先の旧本事務所は令和2年度に復原工事を終えたばかりであり、その保全を図るためツアーの参加人数を見直したものの。		
IV-4-(1)-① 北九州の魅力づくり	14	⑧	北九州市魅力発信事業	企画課	市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。	本市への愛着があると答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	79.3% (H25年度)	目標 90.0%	実績 83.1%	達成率 92.3%	90.0% (R6年度)	継続	4,221	3,799	減額	8,700	順調	事業の成果指標については、令和3年度時点でいずれも達成率が90%以上と順調ではあるが、引き続き目標の達成に向けて、 (1) ウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じたシビックプライドの向上や地域情報の効果的な浸透 (2) 「北九州市応援団」への戦略的な情報発信等を通じたシティプロモーション (3) 首都圏や福岡市、若者世代をターゲットとした効果的なシティプロモーションに取り組んでいく。 一方、課題としては、「北九州市 時と風の博物館」の既存の利用者が程度固定されていることから、新規利用者の発掘につながるよう、他事業とのコラボや市制60周年特別企画などの新たな企画の検討を行う。	順調	事業の成果指標については、令和3年度時点でいずれも達成率が90%以上と順調ではあるが、引き続き目標の達成に向けて、 (1) ウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じたシビックプライドの向上や地域情報の効果的な浸透 (2) 「北九州市応援団」への戦略的な情報発信等を通じたシティプロモーション (3) 首都圏や福岡市、若者世代をターゲットとした効果的なシティプロモーションに取り組んでいく。 一方、課題としては、「北九州市 時と風の博物館」の既存の利用者が程度固定されていることから、新規利用者の発掘につながるよう、他事業とのコラボや市制60周年特別企画などの新たな企画の検討を行う。
					本市が好きだと答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	78.5% (H25年度)	目標 90.0%	実績 87.2%	達成率 96.9%	90.0% (R6年度)										

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標	
IV-4-(2)-① 戦略的なシ ティプロモ ーションの展 開	15	⑧	北九州市魅力 発信事業	企画 課	市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。	本市への愛着があると答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年 度)	継続	4,221	3,799	減額	8,700	順調	事業の成果指標については、令和3年度時点でいずれも達成率が90%以上と順調ではあるが、引き続き目標の達成に向けて、 (1) ウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じたシビックプライドの向上や地域情報の効果的な浸透 (2) 「北九州市応援団」への戦略的な情報発信等を通じたシティプロモーション (3) 首都圏や福岡市、若者世代をターゲットとした効果的なシティプロモーションに取り組んでいく。 一方、課題としては、「北九州市 時と風の博物館」の既存の利用者がある程度固定されていることから、新規利用者の発掘につながるように、他事業とのコラボや市制60周年特別企画などの新たな企画の検討を行う。	順調	事業の成果指標については、令和3年度時点でいずれも達成率が90%以上と順調ではあるが、引き続き目標の達成に向けて、 (1) ウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じたシビックプライドの向上や地域情報の効果的な浸透 (2) 「北九州市応援団」への戦略的な情報発信等を通じたシティプロモーション (3) 首都圏や福岡市、若者世代をターゲットとした効果的なシティプロモーションに取り組んでいく。 一方、課題としては、「北九州市 時と風の博物館」の既存の利用者がある程度固定されていることから、新規利用者の発掘につながるように、他事業とのコラボや市制60周年特別企画などの新たな企画の検討を行う。	
							実績	79.3% (H25年 度)	83.1 %												
							達成率		92.3 %												
						本市が好きだと答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年 度)										
							実績	78.5% (H25年 度)	87.2 %												
							達成率		96.9 %												
IV-4-(2)-② 北九州を 応援する人 のネットワ ークによる 情報発信	16	⑧	北九州市魅力 発信事業	企画 課	市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。	本市が好きだと答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年 度)	継続	4,221	3,799	減額	8,700	順調	事業の成果指標については、令和3年度時点でいずれも達成率が70%以上と順調ではあるが、引き続き目標の達成に向けて、 (1) ウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じたシビックプライドの向上や地域情報の効果的な浸透 (2) 「北九州市応援団」への戦略的な情報発信等を通じたシティプロモーション (3) 首都圏や福岡市、若者世代をターゲットとした効果的なシティプロモーションに取り組んでいく。 一方、課題としては、「北九州市 時と風の博物館」の既存の利用者がある程度固定されていることから、新規利用者の発掘につながるように、他事業とのコラボや市制60周年特別企画などの新たな企画の検討を行う。	順調	北九州市魅力発信事業については、「北九州市が好き」「北九州市が誇り」「北九州市と関わりたい」と思い、市民や市出身者が自ら北九州市の魅力を発信していく輪を広げ、北九州市への愛着・自信・誇りを高めていくために、 (1) ウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、特に若い世代に対して、シビックプライドの向上や地域情報の効果的な浸透を図る。 (2) 「北九州市応援団」への戦略的な情報発信等を通して、本市の魅力を市内外で共有し、ロコミなどを活用したシティプロモーションを図る。 また、コロナ禍の影響による「地方回帰」の流れを活かすためにも、首都圏や福岡市、若者世代をターゲットに、引き続き効果的なシティプロモーションを図る。 首都圏応援ネットワーク拡大事業については、新規サポーターの獲得を進めるとと	
							実績	78.5% (H25年 度)	87.2 %												
							達成率		96.9 %												
						本市への誇りや自信があると答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	目標	75.0 %	75.0 %	75.0 %	80.0% (R6年 度)										
							実績	56.7% (H25年 度)	55.2 %												
							達成率		73.6 %												
						市外からの来訪者に対し、「北九州市の魅力がいくつ伝えられますか」との質問に対し、「1つ」以上あると答えた市民の割合	目標	83.2% (H23年 度)	95.0 %	95.0 %	95.0 %										95.0% (R6年 度)
							実績		87.1 %												
							達成率		91.7 %												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 (千円)			予算額 (千円)	事業 評価	局施策 評価				
17	⑧ ⑩		首都圏応援 ネットワーク 拡大事業	東京 事務所	首都圏において 新たなネットワー ク構築のために、 サポーターの組織 化を進める。さら に北九州市ゆかり の店舗等のネット ワーク構築によ り、民間と連携し た情報発信拠点の 拡大を図る。 これにより、首 都圏での北九州市 の認知度向上や北 九州ファン層の拡 大、人・店舗・企 業のつながりを作 る。	KitaQサポーター 登録者数	2,032人 (R1年 度)	目標 2,700 人	実績 2,961 人	3,100 人	登録者 数計 3,100人 (R5年 度)	継続	4,050	3,645	減額	4,900	順調	これまで構築したネット ワーク（応援ショップ等）を 通じた情報発信だけでなく、 企業や他都市との連携による イベント開催を行うことで、 より効率的な本市の魅力発信 を行い、更なるKitaQサポー ターの獲得につなげていく。	もに、興味・関心の深化・持 続を図るため、本市の魅力を 発信するイベントにおける体 験や情報を提供していく。 ふるさと寄附金について は、引き続き魅力ある返礼品 を開発し、寄附金額の増加を 図る。			
						達成率		109.7 %														
						寄附件数	46件 (H24年 度)	目標 前年度比 (64,616 件) 増	実績 96,953 件	前年度比増	前年度比増	—	拡大	1,110,000	1,837,000	増額	21,450	大変 順調	ふるさと寄附金について は、引き続き魅力ある返礼品 を開発し、寄附金額の増加を 図る。 加えて、首都圏で開催され るイベントに出展するなど本 市のふるさと納税返礼品の魅 力発信を強化する。			
18	③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑪ ⑰		ふるさと寄附 金促進事業	企画 課	「ふるさと北九 州市応援寄附金」 についてPRし、寄 附件数及び寄附金 額の増加を図る。 また、寄附金の 使い道を寄附者が 選択できる仕組み と一定額以上の寄 附者に対する地元 特産品等の贈呈を 通じ、本市の魅力 を全国に発信す る。	寄附金額	約450万 円 (H24年 度)	目標 前年度比 (112,654万 円) 増	実績 181,809 万 円	前年度比増	前年度比増	—										
						達成率		161.4 %														
						達成率		150.0 %														

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
IV-4-(2)-③ 都市イメージの向上	19	⑧ ⑪	情報発信・取材協力事業	企画課	本市の認知度と都市イメージの向上を図るため、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等のマスメディアを通じた本市のPRに取り組む。	北九州市の認知度 (地域ブランド調査によるもの)	目標	10位以内	10位以内	10位以内	10位以内 (毎年度)	継続	18,322	16,490	減額	20,950	やや遅れ	市制60周年を迎えるにあたり、大型番組等の誘致や60周年関連イベント等の情報発信に重点的に取り組む。	やや遅れ	各媒体の特性を生かして、本市の事業やイベント等をPRすることにより、引き続き本市の認知度向上やイメージアップを図る。
							実績	17 位												
							達成率	—												
						北九州市の情報接触度 (地域ブランド調査によるもの)	目標	10位以内	10位以内	10位以内	10位以内 (毎年度)									
							実績	16 位												
							達成率	—												
V-3-(2)-② 公共施設の転活用などの検討	20	⑧ ⑨ ⑪ ⑫	公共施設マネジメント推進事業	都市マネジメント政策課	「公共施設マネジメント実行計画」に基づき、公共施設に関する将来的な財政負担を軽減するための取り組みを進める。	公共施設保有量の縮減	目標	—	—	—	約20%削減 (R37年度)	継続	8,256	7,434	減額	54,000	順調	「公共施設マネジメント4ヶ年行動計画」に基づき、実行計画の進捗状況を的確に把握し、評価を行いながら進めていくなどの実効性の確保に努める。	順調	計画の推進にあたっては、今後も「公共施設マネジメント4ヶ年行動計画」により進捗状況の的確な把握及び評価を行い、公共施設マネジメントの取組を継続的に進めていく。
							実績	—												
							達成率	—												
V-3-(2)-③ 近代化遺産などの文化財の活用	21	⑪	世界遺産維持活用保全事業	総務課	国や関係自治体、所有者等との連携のもと、遺産価値の保全につとめる。	登録資産の保全	目標	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成 (毎年度)	継続	27,132	26,245	維持	5,800	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により実施困難な会議やイベントについて、Web会議や書面開催を活用するとともに、コロナ禍においても実施可能なPRイベントを検討していく。	順調	世界遺産登録資産の保全を行うとともに、関係機関と連携して世界遺産の理解増進・情報発信の取組を進め、文化の保存・継承とにぎわいづくりの資源としての魅力向上を図る。
							実績	ユネスコへの報告書作成												
							達成率	—												
						まつり起業祭等、地元の祭り等に出展	目標	2 件	2 件	2 件	2件 (毎年度)									
							実績	2 件												
							達成率	100.0 %												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
	22	⑩	世界遺産集客 にぎわい創造 事業	総務 課	旧本務所見学 バスツアーを実施 するとともに、バ スツアーにおける ガイドの充実を図 る。	バスツアーの参加 者数 ※中期目標改訂	64人	目標 160 人	実績 0 人	達成率 0.0 %	120人 (R5年 度)	継続	1,400	1,280	減額	5,800	遅れ	新型コロナウイルス感染症 の影響により休止しているバ スツアーを再開するため、所 有者と継続して協議・調整を 図り、実施に向けた準備を進 めていく。 また、ツアーの内容につい て、世界遺産をPRするととも に東田地区のにぎわいづくり につながるような効果的な実 施方法を検討し、ルートや回 数の見直しを行った。 【中期目標の変更内容】 見学先の旧本務所は令和 2年度に復元工事を終えたば かりであり、その保全を図る ためツアーの参加人数を見直 したものの。		
VII-1- (1)-① 「東ア ジア経 済交流 推進機 構」事 業の推 進	23	⑧ ⑯	東アジア（環 黄海）経済交 流推進機構推 進事業	国際 政策 課	平成16年11月に 設立した「東ア ジア経済交流推 進機構（以下「機 構」）」の共同 事務局として、会 員都市との連絡調 整、各会議の窓口 調整や開催支援を 行うとともに、機 構活動の管理運営 にあたる。	会員都市間ネット ワークの活用によ る共同プロジェクト の件数 ※中期目標改訂	4件 (H26年 度)	目標 2 件	実績 1 件	達成率 50.0 %	2件以上 (毎年 度)	継続	4,871	4,371	減額	11,050	順調	会員都市の意向を踏まえ、 従来の固定した分野での部会 活動方法を廃止し、各都市が 紹介したい案件、連携を希望 する案件などを提案し、参加 希望の都市間でワーキンググ ループ的な活動を行えるよう 部会活動方法を改め、機構活 動の活性化を図っていく。 【中期目標の変更内容】 これまで固定された4分野 の部会での活動数を目標数に 掲げていたが、今回の見直し により4部会が廃止された。 見直しに伴い、今後は各都市 間で情報交換を行いながら、 共通の希望があった分野で活 動を行っていくこととなるた め数値目標を変更する。	順調	固定した分野での部会活動 からワーキンググループ的な 活動へと部会活動方法を見直 し、機構活動の活性化を図っ ていく。
					東アジア経済交流 推進機構における 会議数	24件 (H26～ H30年 度)	目標 4 件	実績 7 件	達成率 175.0 %	7 件	19件 (R2～R6 年度)									

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)					
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標				
VII-1-(1)-② 都市間 交流・ 連携の 推進	24	17	国際交流事業	国際 政策 課	姉妹・友好都市 を中心とした海外 諸都市との様々な 分野での交流推進 を図るため、訪問 団の受入れや本市 からの訪問団派遣 等の交流事業を行 う。	姉妹・友好都市を 中心とした海外諸 都市との交流事業 参加者延べ人数	343人 (H26年 度)	目標 330 人	実績 300 人	達成率 90.9 %	330 人	330 人	330 人	330人以上 (毎年 度)	継続	9,338	8,401	減額	14,950	順調	国際的な人の往来が再開される中、必要に応じオンラインツールも活用しながら、姉妹・友好都市を中心とした各国諸都市と可能な限り対面での交流事業を実施していく。加えて行政間交流や市民交流の枠を超え、相手の都市と本市の双方にメリットとなる分野について情報交換をしながら交流を推進していく。			
	25	17	ASEAN新都市 間連携促進事 業	国際 政策 課	成長するアジア の活力を本市に取り 込むため、姉妹 都市であるベトナム・ハイフォン市 やカンボジア・プ ノンペン都などア セアン諸都市との 交流事業を実施す る。	アセアン諸国など アジアの新興国と の交流事業参加者 延べ人数 ※中期目標改訂	—	目標 50 人	実績 19 人	達成率 38.0 %	50人 (毎年 度)	50 人	50 人	50 人	継続	3,960	3,561	減額	7,955	遅れ	国際的な人の往来が徐々に再開されており、姉妹都市であるベトナム・ハイフォン市、カンボジア・プノンペン都と可能な限り対面での交流事業を実施していく。必要に応じオンラインツールも活用しながら交流を推進していく。 また、その他アセアン諸国との多分野における交流機会を探りながら関係構築を図る。 【中期目標の変更内容】 これまでの中期目標は「100人（毎年度）」としてきたが、コロナ禍において、人の往来が制限されていたことから単年度目標は50%の「50人」としてきた。その経緯を踏まえ、またコロナ禍の影響が続くと思われることから、中期目標を変更する。	順調	姉妹・友好都市をはじめ、アセアン地域やオセアニア等、様々な国・地域との交流強化や関係構築に引き続き取り組む。	
	26	17	海外とのネット ワーク強化 事業	国際 政策 課	海外での本市の 知名度向上、及び 海外各都市との ネットワーク強化 を図るため、より 効果的で戦略的な 情報発信、シティ プロモーションを 実施する。	各種SNSによる発 信件数 ※中期目標改訂	—	目標 288 件	実績 358 件	達成率 124.3 %	288件 (R5年 度)	288 件	288 件	288 件	継続	4,700	4,300	減額	3,075	大変 順調	引き続き、各国で好まれるSNSを活用し効果的な情報発信を行い、本市の認知度のさらなる向上を目指す。 【中期目標の変更内容】 発信件数及び閲覧件数を令和5年度目標数値にあわせて修正。 閲覧件数目標については中国、韓国、英語向け各SNSのフォロワーも順調に増加しており、令和4年度の実績をベースに数値目標を変更している。			
					各種SNSの閲覧件 数 ※中期目標改訂	—	目標 15,000 件	実績 7,386,517 件	達成率 49,243.4 %	1,500,0 00件 (R5年 度)	15,000 件	15,000 件	1,500,000 件											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
VII-1-(2)-② 文化・スポーツ交流の拡大	27	⑩	国際交流事業	国際政策課	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との様々な分野での交流推進を図るため、訪問団の受入れや本市からの訪問団派遣等の交流事業を行う。	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との交流事業参加者延べ人数	343人 (H26年度)	目標 330 人	実績 300 人	達成率 90.9 %	330人以上 (毎年度)	継続	9,338	8,401	減額	14,950	順調	国際的な人の往来が再開される中、必要に応じオンラインツールも活用しながら、姉妹・友好都市を中心とした各国諸都市と可能な限り対面での交流事業を実施していく。加えて行政間交流や市民交流の枠を超え、相手の都市と本市の双方にメリットとなる分野について情報交換をしながら交流を推進していく。	順調	行政間交流や文化交流の枠を超え、姉妹・友好都市と本市の双方にメリットとなる分野について情報交換をしながら交流を推進していく。
VII-2-(2)-② 海外の経済事務所の活用	28	⑧ ⑩	中国ビジネスサポート拠点整備事業	国際政策課	駐中国北九州市経済事務所を設置・運営し、地元企業のビジネスサポートや進出支援を行うとともに、本市と中国の都市とのネットワークを形成・強化する。	海外事務所の本市地域企業への貢献度	—	目標 80 %	実績 91.6 %	達成率 114.5 %	80% (R5年度)	継続	37,544	35,544	減額	3,075	順調	ゼロコロナ政策の終了により中国国内での活動が再び活発化する中、必要に応じオンラインツールも活用しながら、地元企業等のビジネスサポートやインバウンド誘致につながる活動を推進していく。	順調	引き続き市内企業のビジネスサポート及び北九州市の魅力発信に努めていく。
VII-2-(3)-② 国際都市にふさわしいまちづくり	29	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の推進	国際政策課	日本人市民に対して、多文化共生に関する意識啓発や国際交流の機会や場の提供を行うことで、外国人を受け入れる地域づくりを目指すとともに、すべての市民が安心して暮らし、自己の能力を發揮できる「多文化共生先進都市」としてのまちづくりを推進する。	市民の「多文化共生」という言葉の認知度	51.8% (H29年度)	目標 54.0 %	実績 59.9 %	達成率 110.9 %	62% (R6年度)	継続	42,803	43,921	維持	3,075	順調	外国人市民に対する事業だけでなく、地域住民に対するやさしい日本語の普及など、多文化共生の意識醸成のための施策を実施する。	順調	今後も、(公財)北九州国際交流協会と緊密に連携し、多様化する外国人市民のニーズを的確にとらえ、外国人市民が安心して住み続けられるよう、きめ細やかな情報提供や伴走型支援を行っていく。また、外国人市民だけではなく、地域において更なる多文化共生の意識啓発を促し、多文化共生の地域づくりを進める。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
	30	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワ ンストップイ ンフォメー ションセン ター運営事業	国際 政策 課	外国人市民が安 心して生活でき るための情報提供 や相談に多言語で 元的に対応する 「北九州市多文化 共生ワンストップ インフォメーショ ンセンター」の運 営を行う。	外国人市民の生活 環境の向上 (多文化共生の現 状調査で暮らしや すいと回答)	79.7% (H26年 度)	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80%以 上 (R6年 度)	継続	24,715	24,715	維持	2,325	順調	外国人市民が抱える様々な 問題に、行政機関や専門家と 連携しながら、伴走型の支援 を継続し、外国人市民にとっ て安全・安心な生活環境の整 備に努める。		
VII-3- (I)-① 県内周 辺市町 村との 広域連 携推進	31	⑧ ⑰	北九州都市圏 域連携事業	総務 課	本市を含めた18 市町で形成され た、連携中枢都市 圏「北九州都市圏 域」のブランディ ング、プロモー ション事業を行 う。	北九州都市圏域内 の宿泊者数	177.4万 人 (H27年)	目標 現観光振興 プラン更新 時に設定	現観光振興 プラン更新 時に設定	現観光振興プラ ンの数値を踏ま え、令和5年度 中に設定予定	現観光 振興プ ランの 数値を 踏ま え、令 和5年 度中 に設 定予 定	継続	4,000	2,820	減額	17,400	やや 遅れ	連携事業の企画検討を行 い、圏域市町の意見を取り入 れたブランディング化を図 る。 また、ホームページの積極 的な活用を図り、圏域の魅力 発信を強化する。	順調	北九州都市圏域での連携事 業について、これまでのプロ モーション活動の経験を活か しつつ、随時見直し等を行 い、連携をより一層強化して いく。
VII-3- (I)-② 近隣主 要都市 との都 市間連 携	32	⑪ ⑰	広域行政推進 事業	総務 課	下関市との連携 については、県境 を越えて両市の経 済成長・文化交流 に繋がる取組を行 う。 また、福岡市と の連携について は、福岡県内の政 令市同士として共 同施策を推進す る。	本市と下関市両市 の企画部門等で会 議を開催し、両市 の経済成長に繋 がる取組について 協議・検討	—	目標 関門地域の活 性化に資する 連携会議等 での取組の協 議・検討	関門地域の活 性化に資する 連携会議等 での取組の協 議・検討	関門地域連携 推進協議会と それに伴う両 市企画部 門等の会議 の開催	継続	3,972	4,011	維持	13,300	順調	下関市や福岡市など近隣の 主要都市との連携について、 担当部門の各連携事業の推 進を図り、より一層強化して いく。	順調	今後も近隣都市との連携を 一層強化していく。	
					本市と下関市両市 の行政間における 連携事業数	40事業	目標 40事業	実績 40事業	40事業	40事業	40事業 (毎年度)									
					本市と福岡市両市 の行政間における 連携事業数	26事業	目標 26事業	実績 26事業	26事業	26事業	26事業 (毎年度)									

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度	R5年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 (千円)			予算額 (千円)	事業 評価	局施策 評価		
33	8 11 17		関門連携推進 事業	総務 課	関門地域魅力向上事業を発展させた形で、新しい生活様式が定着した「Afterコロナ期」を見据え、国内外からの観光客誘致を促進するため、関門エリアの魅力をブラッシュアップし、受入れ態勢のさらなる強化を図る事業を実施する。	行政間における関門連携事業数	40事業	目標	40 事業			40事業 (毎年度)								
							実績	40 事業			達成率									100.0 %
33	8 11 17		関門連携推進 事業	総務 課	関門エリア（下関市・北九州市）の観光客・宿泊客による観光消費額	80,400 百万円 (R2 年)	目標		現観光振興 プラン更新 時に設定	現観光振興 プラン更新 を踏まえ、 令和5年度中 に設定予定	52観光 振興プ ラン更 新を踏 まえ、 令和5 年度中 に設定 予定	継続	2,000	1,320	減額	20,750	順調	引き続き、関門エリアの魅力をブラッシュアップし、受入れ態勢のさらなる強化に取り組む。		
						実績				達成率										
VII-3- (2)-② 九州各 地域な どとの 連携	34	11 17	広域行政推進 事業	総務 課	【西九州軸連携】 九州新幹線沿線自治体（鹿児島市、熊本市、福岡市）との「四都市連携」と福岡県内の政令市同士として共同施策を進める福岡市との「福北連携」を核とした広域連携に加えて、鹿児島県南九州市との都市間交流の推進により、九州の一体的な発展のため、西九州軸の広域連携の強化を図る。	連携事業の実施 (西九州軸での活動)	1回 (H28年 度)	目標	1 回	1 回	1 回	1回 (毎年度)	継続	3,972	4,011	維持	3,075	大変 順調	新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮して各連絡会議を书面開催するなど、適時、適切に対応している。令和5年度以降も、状況に応じて書面開催やWEB会議など柔軟な対応を取りつつ連携の質を高めていく。	
							実績	1 回			達成率									100.0 %
							達成率	100.0 %												
						連携事業の実施 (東九州軸での活動)	1回 (H28年 度)	目標	1 回	1 回	1 回	1回 (毎年度)	継続	3,972	4,011	維持	3,075	大変 順調	新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮して各連絡会議を书面開催するなど、適時、適切に対応している。令和5年度以降も、状況に応じて書面開催やWEB会議など柔軟な対応を取りつつ連携の質を高めていく。	
							実績	2 回			達成率									200.0 %
							達成率	200.0 %												
四都市間にて市民 割引料金を適用す る市施設数（動物 園、美術館、博物 館など）	52施設	目標	52 施設	52 施設	52 施設	52施設 (毎年度)	継続	3,972	4,011	維持	3,075	大変 順調	今後も交流・連携の枠組みを維持・継続し、九州の各地域との連携を強化していく。							
	実績	52 施設			達成率									100.0 %						
	達成率	100.0 %																		